

実習報告（基盤教育実習）

知的障害特別支援学校における生徒の「ニーズ」に着目した教育の研究

内川 瞳（子ども支援探究コース）

【探究実習のテーマと設定の理由】

○探究実習のテーマ

知的障害特別支援学校における生徒の「ニーズ」に着目した教育の研究

○テーマ設定の理由

文部科学省が平成19年4月1日に通知した「特別支援教育の推進について」によると、特別支援教育を行うための体制の整備及び必要な取組として、関係機関との連携を図った「個別の教育支援計画」の策定と活用と「個別の指導計画」の作成が挙げられている。個別の指導計画とは、本人の特性に応じて、授業や学校生活の中での目標、具体的な学習内容・方法、生活の仕方などについて立てられる計画であり、個別の教育支援計画とは、本人や保護者等のニーズに基づき、長期的な視点から、就学前から卒業後の本人の生活を見通し、教育・医療・福祉等の関係者がそれぞれの立場からの情報を持ち寄り、連携の在り方を含めてよりよい支援の在り方をまとめていくものとされている。特別支援学校の学習指導要領等では個別の指導計画と個別の教育支援計画の作成が明記されており、これらに基づいた教育が行われている。実際に作成された計画の内容を見てみると、明確な問題行動や困っていることを解決するための内容が多く挙げられている。しかし、指導や支援を考えていく上では、より潜在的な「ニーズ」も明らかにしていく必要があると考える。文部科学省が令和3年6月に作成した「障害のある子供の教育支援の手引」によると、教育的ニーズとは「子供一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を把握して、具体的にどのような特別な指導内容や教育上の合理的配慮を含む支援の内容が必要とされるかということを検討することで整理されるもの」とされている。これらを踏まえ、実習の中で、一人の生徒を中心に観察しながら情報を収集し、その生徒個人の「ニーズ」とはなにかを考察していきたい。その後、「ニーズ」に合わせた取り組みや支援を考えていく。

このような研究テーマから、今回の探究実習では、特別支援学校で行われている指導や支援の手立て、生徒たちの様子などを観察する。その上で、生徒一人ひとりの観察をどのような視点や方法で観察していくのか、研究を進めていく中でどのように分析していくのかを学んでいく。

【探究実習の研究目標】

- (1) 知的障害特別支援学校における指導や支援の現状について知る。
- (2) 観察した様子や担任団の情報から、生徒個人の「ニーズ」を探る。
- (3) 実習における生徒個人の観察法を身に付ける。

【探究実習の概要】

実習校名称	A 特別支援学校
実習期間	2022年9月13日～2023年2月17日（計20日間）
実習内容	・各教科等の時間（国語・数学・音楽・美術・保健体育・自立活動）、生活単元学習、作業学習（紙工・窯業）の授業参観や支援

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・生活単元学習の授業実践 (1 コマ) ・高等部3年生との関わり |
|---|

【探究実習の成果と課題】

本実習では、担当の学級の各教科等の時間や生活単元学習、作業学習などの授業を参観し、必要に応じて支援を行った。また、休み時間や放課後なども学級以外の生徒たちにも関わらせていただいた。知的障害特別支援学校の現状として、国語や数学の時間はそれぞれの学習内容に合わせたクラス編成になっており、個別の目標に合わせた教材を用意されていた。教室で一斉に学習をする時間は、一人ひとりの力に合わせてワークシートを工夫したり、隣で教員が言葉かけをしたりしながら学習を進めていた。実際に生活単元学習の授業実践を行った時は、生徒の実態に合わせて調べ学習ができるような工夫を考えた。支援をしていく中で、生徒の実態を適切に把握することが何よりも重要であると感じた。さらに、生徒の実態を適切に把握するためには、時間をかけてラポールを築くことも重要であると考えた。

また、生徒の「ニーズ」を探るために、主に一人の生徒に着目して観察を行った。登校してから帰りの会までの時間の生徒の様子を観察し、必要に応じて支援を行ったり、言葉かけをしたりした。実際に観察を行ってみると、発言や行動を中心とした記録になってしまい、立ち止まっている時になにを見ていたのか、座っている時になにを考えていたのかなど、潜在的な「ニーズ」を探るには情報が少ないと反省した。障害のある子どもは口数が少ない場合も多く、話すことが得意であっても自分の気持ちをうまく言葉にすることが苦手な場合もある。さらに、他の生徒と話している時や掃除の時間などは観察が難しいと感じた。これらの反省より、課題として、生徒の観察法について見直す必要があると感じた。具体的には、観察の視点をより具体的に整理し、記録紙を作成して来年度の実習に取り組みたい。他にも、今回の実習では、現在の担任やこれまでの担任から見た生徒の様子を聞いたり、個別の指導計画や個別の教育支援計画を見せていただいたりした。これらは生徒を理解していく上で重要だと感じたので、来年度も続けていきたい。

今年度の実習全体を振り返り、知的障害特別支援学校にどのような生徒が在籍しており、どのような指導や支援が行われているのかを学ぶことができた。また、生徒と関わる中で、より深く生徒のことを理解することがよりよい指導や支援に繋がるのではないかと感じた。来年度は、今回の反省を生かして、一人の生徒を中心に観察しながら情報を収集し、その生徒の「ニーズ」とはなにかを考察していきたい。また、今年度よりも積極的に実習校の担任団からの情報収集を行う。そして、「ニーズ」に合わせた取り組みや支援を考えていく。

【参考文献】

- ・文部科学省 「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」について
(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/063/siryo/_icsFiles/afieldfile/2015/12/07/1364742_04.pdf) 最終閲覧日 2023年1月13日
- ・佐賀県教育センター「特別支援教育」(<https://www.saga-ed.jp/soudan-shien/tokubetsushien/>)
最終閲覧日 2023年1月13日
- ・文部科学省 「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」 (https://www.mext.go.jp/content/20210629-mxt_tokubetu01-000016487_01.pdf)
最終閲覧日 2023年1月21日